

連合長崎第44回地方委員会

～次の飛躍へ 確かな一歩を～



連合長崎は、10月18日(木)の14時から長崎県勤労福祉会館において第44回地方委員会を開催しました。

委員会は、上田副会長の開会あいさつにはじまり、議長団に自治労・米村地方委員、自動車総連・花田地方委員を選出して議事が進められました。

冒頭、宮崎会長があいさつ(別記)を行い、その後、西岡国民進歩党県連代表代行、堤社民党県連合副代表、山田立憲民主党県連代表、森全労済長崎推進本部本部長、白川鮎美参議院議員選挙候補予定者から激励のあいさつを受けました。

その後、「第17回フォトコンテスト」最優秀賞の松良慎之介さん(長崎私交通労組)の表彰を行い、2018年2月1日から今回の地方委員会までの組織拡大実績に基づき、自治労、基幹労連へ「組織拡大に関わる交付金」を授与しました。

その後、報告事項に入り、一般経過報告、2018春季生活闘争総括、2018年度連合長崎選挙総括、2018

年度会計報告・会計監査報告をし、承認されました。

審議事項では、第1号議案「2019年度運動方針(案)」、第2号議案「2019年度予算(案)」、第3号議案「連合長崎役員交代(案)」、第4号議案「第19回統一地方選挙・第25回参議院議員選挙等対策(案)」の提案を行い、それぞれが全会一致で承認されました。また、統一地方選挙の推薦候補予定者の皆様からそれぞれ決意表明をいただきました。

引き続き、「スローガン」と「第44回地方委員会アピール」の採択後、岩永副会長の開会あいさつがあり、「過労死等防止啓発月間」のアピール行動として「もう、過労死はなくそう」というメッセージを掲げ、参加された地方委員の皆様で写真撮影を行いました。

最後に宮崎会長のガンバロー三唱で、「次の飛躍へ 確かな一歩を」のスローガンのもと、各構成組織、地協・ブロックと連携しながら、2019年度の取り組みを進めていくことを誓いあいました。

議長団：(右)自動車総連・花田地方委員
(左)自治労・米村地方委員



過労死等防止啓発月間フォトメッセージ

会長あいさつ



～相次ぐ自然災害の発生と

私たちの取るべき対応について～

近年、国内外において大規模自然災害が数多く発生しており、特に今年は夏場にかけて、豪雨や台風、地震等が全国各地で発生しました。お亡くなりになられた方々、被災された皆さんに、まずもって、お悔みとお見舞いを申し上げます。

被災地では多くの仲間が復旧、復興活動に取り組んでいます。

この長崎でも局所的に土砂崩れや水の被害などが発生しており、自然災害が予測された時点から、行政や交通・運輸、生活インフラに従事する連合長崎の組合員が、市民県民の安全を守るため、あるいは、生活を守るために懸命に活動しています。全労済は、東日本大震災以来の非常事態宣言のもと、全国からの動員により懸命な調査活動を展開しています。もちろん長崎からも派遣しています。残った限られた人数で懸命に日常業務に従事されていることを紹介しそれぞれの組織のご理解を頂ければと思います。

被災地への連合長崎のボランティアは、受入れ側の体制等を考慮し派遣しませんでした。構成組織、地協・ブロックの協力を得ながら、街頭を含めたカンパ活動に取り組んでいます。本日もカンパ箱をおいていますので、ぜひご協力をお願いします。

また、いつどこで災害が発生するか分からない、この長崎でも発生するとの認識に立てば、防災、減災の

取り組み、あわせて、万が一に備えて、全労済や独自共済への加入の有無、加入内容の確認など、なきめ細やかな対応をぜひお願いします。

～政策制度実現に向けた政治活動について～

昨年の衆議院選挙では、全国的には、与党が3分の2を確保し、県内でも2区から4区は残念な結果となりましたが、1区では、これまで高木代表が守ってきた議席を、小選挙区で勝利し「西岡秀子」議員を誕生させることができました。

衆議院解散から、民進党の希望の党との合流、排除発言をはじめ極めて戦いにくい環境の中で、最終盤での構成組織代表者会議での意思統一にもとづき、連合加盟組織・地協が最後は「一つ」になって貴重な1議席を確保できました。

困難な状況を、みんなの議論と知恵で乗り越えた大きな成果だと思います。

2月の県知事選挙では、中村知事当選につながる連合長崎としての役割は発揮できたと判断します。その結果、長崎県と連合長崎との信頼関係は従前より深まりました。例えば、長大経済学部への連合長崎寄付講座に中村知事も講師として入ってもらったり、県労福協の県に対する政策要請書では、8年ぶりに県知事に直接手交します。

まさに、政策制度実現のための政治活動を実践することが出来たと思います。

私たち働くものをとりまく状況は、極めて厳しいと言わざるを得ません。年金は減額される、介護や医療などの福祉に対する負担は増え続け、国の借金は膨らむ一方で、格差は拡大し、貧困と言う言葉が、私たちの生活のすぐ隣まで来ている。平和を脅かす危険な動きも加速しています。今の若い人たち、私たちの子や孫の時代に、どのような社会になっているのか、今この流れを変えなければなりません。そのためには、選挙で私たちの代表者を議会に送り込むことが大事です。

連合本部は、国民民主党と立憲民主党との意見交換を行ってきた結果、先般、「与党を利さない」ことなど

その基本姿勢について共有を図り、今後、両党との政策協定の締結に向け取り組むこととしています。

私たち連合長崎も、各政党、労働団体との意見交換などを行いながら、私たちが推薦した全ての議員の勝利に向け、連合長崎の力を最大限発揮できる環境づくりに努力していくこととします。

連合長崎として推薦したからには勝利する。そのことを確認した上で、県議会における改革21の勢力拡大、市町議会における働く者の代表をひとりでも多く送り込むこと、そのために、連合長崎5万人組合員が最大限力を結集できるように、支援体制の確立や学習、啓発活動など時期を捉えて取り組みたいと思います。

また、夏の参院選では、連合長崎は3月15日の第6回執行委員会で、「白川あゆみ」さんの推薦を確認しました。その後、各組織においては、11月末までの推薦決定に向け作業が行われ、大会やイベントなどへの参加など取り組まれています。

先日「チームあゆみ」後援会が発足しましたが、全体的には、中央での政党の動き等もあり、まだまだフル活動ではありません。本地方委員会では、それぞれが抱える比例候補者とあわせ、「白川あゆみ」さんを絶対当選させるとの意思統一を図り、本日を機に具体的活動をスピードアップしていきますので、絶大なる支援を要請します。

～連合長崎の更なる発展に向けて～

連合長崎は2020年5月に30周年という大きな節目を迎えます。

この間、意思統一してきた「2020年6万人連合長崎」

を実現するとともに、組合員はもとより、地域、市民から信頼され、頼りにされる連合長崎になるために、この30年を振り返りつつ、必要な改革は断行していかなければならないと感じています。

平和の取り組みをはじめ、人権や環境、県市町に対する政策制度要求、中小労組に対する支援、日常的な労働相談や連合ながさきユニオン、非正規労働センターなどを通じての相談支援機能、これ以外にも、様々な分野で活動し、組合員はもとより、労働組合に入っていない人たち、本当に弱い立場の人たちのために、とても素晴らしい活動をしていると誇りに思っています。

もちろん、これらの活動は、先人たちの熱い思いと熟議を経ての歴史の積み上げ、地協やブロック、構成組織、単組の役員、組合員の理解と協力あつてのことです。

ただ、残念ながら、5万人組合員にどれくらい共有されているのか、どれくらいの組合員が活動に参加しているのか、外に目を向けた時に、連合長崎がどのように映っているのか、大きな疑問が残ります。

働く人たちの環境は、先ほど申し上げた通りであり、連合長崎が、組合員・家族を守るために行動することは当然ですが、労働組合を必要としながら労働組合の傘の外にいる働く人たちのために、活動していくことの重要性はますます高まっています。

冒頭申し上げた、これまでの常識が通用しなくなった時代だからこそ、守るべきは守りつつ、大胆に見直すべきは見直しながら、真に頼られる、連合長崎作りに向け、具体的検討を開始していきますので、皆さんの真摯な議論をお願いします。

来賓あいさつ



西岡国民民主党県連
代表代行



堤社民党県連合
副代表



山田立憲民主党県連合
代表



森全労済長崎推進本部
本部長



白川鮎美参議院議員選挙
候補予定者



推薦候補予定者

第44回地方委員会アピール

連合長崎は、本日、第44回地方委員会を開催し、「次の飛躍へ、確かな一歩を」をスローガンに、2019年度運動方針を力強く決定した。

その第1は、連合長崎の最重要課題である組織強化と拡大である。

組織拡大はまさに組織の生命線である。組織拡大をはかり、働く者が公正に保護される基盤を集团的労使関係の構築を通じて、社会的波及力を強めていかなければならない。組織と組合員との対話を基本に、全ての活動を組織強化と拡大につなげていく。2020年「6万人連合長崎」を実現するために、連合長崎、構成組織、地協・ブロックが一体となって仲間づくりに取り組むとともに、女性や若者の連合運動への参画を促進していく。

その第2は、働き方改革の取り組みである。

働き方改革関連法により、時間外労働の上限規制や同一労働同一賃金の法整備など、連合が求めてきた事項が実現する一方、高度プロフェッショナル制度創設が法案から削除されることなく成立した。今後我々は、大事な内容は実効性を担保させ、危険なものは歯止めをかけることに全力を尽くすとともに、すべての職場でより良い働き方の実現をめざし、36協定の適切な締結など「Action/36」の取り組みを全国の仲間と展開していく。

その第3は、政策・制度実現に向けた取り組みである。

「働く者・生活者」の立場にたった政策・制度の実現に向けては、連合長崎が推薦する政治勢力の維持・拡大は不可欠である。来年は統一地方選挙と参議院議員選挙が重なる12年に一度の極めて重要な年である。安倍政権による一強政治に終止符を打ち、私たちの政策・理念を共有する全ての推薦候補者の勝利に向け、本日決定した方針に基づき、構成組織と地協の連携強化により、早急に組織体制の確立を図るとともに、連合長崎の総力を結集してたたかい抜く。

連合長崎は2020年に結成30周年を迎える。今、労働組合に求められていることは、社会の不条理に対して闘う姿勢を持ち行動するとともに、連合長崎が、組合員はもとより全ての働く人たち、そして地域から信頼される存在となり、互いに助け合い、支え合う社会の実現をめざすことであると確信する。

いまこそ、次の飛躍へ、確かな一歩を踏み出そう！

2018年10月18日

日本労働組合総連合会
長崎県連合会 第44回地方委員会



SNSを使って組合員に情報を発信しよう!!

～広報セミナー開催～



講師の西野局長・千葉さん



9月29日に長崎市民会館(長崎市)で「広報セミナー」を開催し、18人の各組織の広報担当者が参加しました。講師は連合本部広報局の西野局長と職員千葉さんが務められ、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・システム)を使った広報をご説明いただきました。Facebookを使ってない人は、Facebookの立ち上げから挑戦し、活用方法を学ぶなど実践的な内

容となりました。学んだ知識を持ち帰って、ぜひ組織でもFacebookを立ち上げてみてください。連合長崎FBにも「いいね!」をお願いします。



連合長崎FB



丁寧に教えていただきました

九州の仲間と学習と交流～第6回ユースラリー in鹿児島～

10月13日(土)～14日(日)に開催された「第6回ユースラリー in鹿児島」に青年委員会から4人、女性委員会から3人、事務局から1人が参加をしました。

1日目は、今回の大河ドラマの「西郷どん」の舞台となっている鹿児島市内でウォークラリーを実施し、学びながら交流を深めました。

2日目は、「防災スペシャリストになる!」と題し、熊本県危機管理防災企画監の有浦隆さんにご講演いただきました。組合員として、肝に銘じておくべきは、防災は全組合員で対応すべき、防災での失敗は命にかかわる、その失敗は無関心から始まる等を学び、日頃からどんな準備をしておくべきか具体的にご教示いただきました。

講演が終わってからは、グループごとに分散会を実施し、自分たちの体験談を共有しながら、講演の

理解を深めました。災害大国日本に暮らす私たちにとって、今までの災害の教訓を活かし、自らの命は自分で守ることを基本とし、いざというときに冷静に対応することが大事であることを学びました。この2日間の成果を、職場・家庭で活かしていくことを約束し、閉会となりました。



分散会で防災について考える



九州から69人の仲間が集まりました

連合長崎第17回フォトコンテスト最優秀賞が決定!

9月14日(金)に「連合長崎第17回フォトコンテスト」の審査を行いました。今年は89点の応募があり、「目指すところへ(長崎私交通労組 松良慎之介さんの作品)」が最優秀賞に決定しました。皆様、力作ばかりでした。来年もたくさんのご応募をお待ちしております。

最優秀賞



「目指すところへ」

松良 慎之介さん
(長崎私交通労組)

優秀賞



「光の国へ」

村井 文明さん
(西海市職員組合)

連合長崎会長賞



「溪流」

小川 美喜雄さん
(佐世保重工労組OB)

連合長崎副会長賞



「あばれるな～」

矢津 充浩さん
(佐世保重工労組OB)

入賞



「早秋の長崎港」

堀 隆義さん
(全自交県タクシー労組OB)



「黄昏の翼」

橋本 健太さん
(JF労組長崎みなと支部)

入賞



「絶景山頂」

草野 健一さん
(東洋機工労組)



「私におまかせ」

中嶋 邦子さん
(佐世保重工労組OB)

佳作



「爆煙!!」

河野 貴文さん
(県職 長崎高等技術専門校)



「夕暮れ」

桐木 達朗さん
(佐藤造船労組)



「鏡富士」

野田 睦子さん
(九電ユニオン)



「君と見た夏」

高田 馨さん
(エムエイチアイマリンエンジニアリング労組)



「はい、こっちを向いて」

松井 節子さん
(佐世保重工労組OB)



「笑顔」

村瀬 潤さん
(三菱重工グループ労連)



「夕陽」

石橋 眞三義さん
(佐世保重工労組OB)



「田んぼで遊ぶ」

楠本 邦博さん
(大村市職員組合)



「出現！カールおじさん」

宮本 晃好さん
(九電ユニオン)



「出陣」

鍋内 翔さん
(エムエイチアイマリンエンジニアリング労組)

「アジア・アフリカ支援米」各地協で稲刈り！

春に田植えを行った各地協・ブロックにおいて、10月に稲刈り作業を行いました。各地協で子どもたちも参加し、楽しい汗を流しました。

収穫された支援米は、現在、各構成組織へお願いしていますカンパ金で購入するお米と合わせ、来年1月に支援先に発送予定です。各地協・ブロックの役員、組合員・家族の皆様、ご協力ありがとうございました。

